

はじめに・・・

この新聞を見てくださっている皆さんこんにちは！  
私たち、ユースボランティア同好会は平成三十年八月二十一日〜二十四日まで、岩手県に行ってきました。  
みなさんは東日本大震災のことを覚えていますか？

岩手県でボランティア活動や被災した方々の講話を聞きました。ここでは、テレビで見た報道とは違う現状を知ることが出来ました。例えば、津波の被害を受けた場所は、建物はおろか、植物すら生えていません。津波の壮絶さを目の当たりにしました。



私たちは、岩手県にある、遺構の「たろう観光ホテル」の館長さんが撮った写真やビデオを見ました。「たろう観光ホテル」は、震災当時の津波により、1階2階部分が波にさらわれ、鉄骨だけ残っている状態になりました。  
その時、館長さんは、食料や電気のブレーカーを落とし、準備をして、最上階に逃げました。そして、津波の撮影をしたのですが、その映像には、津波の被害を受け、倒壊する家々が写っていました。  
館長は、その津波のすさまじい威力に腰を抜かし、気を失ってしまいました。そのため、カメラは空のみを撮影していたのです。館長が目覚めると、大量の海水が瓦礫と共に町一帯に流れ込み、海面は建物の3階の天井の高さまで迫っていました。  
この映像は、テレビでは報道をされていないので、とても衝撃的でした。そして実際に、自分の目で現場を見た時、一階から二階までの骨組みを残し、がっばり津波で持っついていかに残っている外壁を見て、再度驚きました。



上 津波の威力がわかる建物内

下 1階2階が津波にさらわれ鉄骨だけ残った外観



復興から8年目、津波の爪痕はまだ癒えていない状況を目の当たりにしました。震災直後は、関心があるものも、時間がたてば風化してしまします。その風化を食い止めるためにも、伝えていかなければならないことが山ほどあります。

「津波でんでんこ」

まずは、自分の命を守ることを一番に考えて、もしものときに備えてください。

